

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成24年1月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200040		
法人名	有限会社 モリモト		
事業所名	グループホーム田尻の里		
所在地	福岡市西区大字田尻1520番地		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成23年12月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ間の信頼関係をスタッフ各自が当事者として自助努力し合い、そのチームワークに基づいて初めて可能となるサービス提供体制の樹立を基本とし、その上で、契約当事者である入居利用者の方に対するADL等基本介護の提供及び認知症ケアの質の向上研鑽過程での、安全・安心・安楽な生活支援、自立支援を心がけていること。また、御家族に対する綿密な日々の状況報告に心がけ、御家族あつての利用者の生きがい支援に資する相互尊重の精神に立ちたい。利用者並びに御家族、そしてスタッフも5分と5分の関係を基本にしての当事者感覚、当事者使命を心得て、真に誠実な関係を認め合いたいと願っている。南ユニットでは、所属している利用者の方々の能力に則しての自立支援の在り方と、比較的に重たい障害を有されていても、個々の方々の願いや思いを受けとめながら、スタッフ相互の信頼関係を確かめ合いたいと望んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市西区にあるグループホーム田尻の里は平成19年1月に開設された。開設時よりホームの立ち上げと運営に関わられてきた管理者は、“大切な人を守る”“人権擁護・尊厳”と言うホームの最高理念を職員に伝え続けてこられた。職員も“その人がその人らしくあること、そして生きがいを持って頂くこと”を大切に、ありのままを受容しながら、『好きに暮らして、明るく安心』と言う理念の実践に努めてきた。隣接する森本医院の医師、看護師等との医療連携も行われ、22年1月から始められた“ご利用者の誕生日に望みを叶えてさしあげたい”と言う企画で、出生地の神社やお墓参りに出かけることもできた。日々の生活の中でも、料理の本と一緒に見ながら「美味しいんぶらが食べたい」等の声をお聞きし、ドライブを兼ねてのランチを楽しまれたり、蛍を見るために初の夜の外出も行われた。“介護は生活そのもの”と言うことで、花の水やり・テーブル拭き・日めくりをめくるなど、ご本人の役割が作られている。尊厳ある生活者としてのいきがい支援を行うために、更なるチームワーク作りの在り方を検討し、職員の意見を伝えられる環境作りにも努めているホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが、あまり全面に掲げておらず、ときどき機会があって相互確認する程度だが、現状で支障があるとも思えない。	理念の中の”好きに暮らして”は、”個人のペースを保って暮らせるように””無理強いないように”と言う意味が込められており、希望に応じた外出もされている。尊厳ある生活者としての”生きがい”を大切に、地域の中でその人らしく、生きがいのある暮らしを支援している。今後も理念の理解を深めていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との定期交流を毎月ずっと続けている。地域のお店から食材を購入したり、利用者さんと買い物を楽しんだりしている。イチゴ狩り等、地元の生産者さんの好意で交流させてもらったりもしている。	地域密着を大切にされており、近隣の店舗から、お米や野菜、魚などを購入するようにしている。定期的にボランティアの来訪もあり、月1回の保育園児による訪問も、ご利用者は楽しみにされている。運動会の見学に行く等の交流も行われ、今後も中学校の学習体験をお願いしていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。事業所訪問の方々に向けての情報提供に心がけて関係資料を提示している。それ以上の貢献は、必要時に出来ればいいなあと思う程度。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設長が行っていて、内容公開はあるが、積極的に係わっていないため、サービス向上に貢献できていない。	2～3か月に1回、運営推進会議を開催している。ユニット毎にケアの方針を報告し、事故状況や介護保険制度についても報告が行われている。自己評価と外部評価の結果も報告し、課題についての協議も行われている。	今後は職員を中心に会議の企画をしていく予定である。ホームと交流のある方たちにも参加して頂き、お茶会のような雰囲気でも和やかな会にしていきたいと考えられている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいない。方法がわからない。施設長で動かれていることの内容などあれば、スタッフに降ろしてほしい。	管理者は、市の介護保険事業者協議会のネットワーク委員会の委員であり、機関紙の編集作業等にも関わられている。市役所にも出向き、担当者の方との情報交換ができており、市からの生活保護受給者の入居相談に応じるなどの連携も続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいるが、全てのスタッフが具体的に理解できているかは疑問。スピーチロックや夜間帯の安全確保のために、代替策として不可抗力な場合もある。基本的には、拘束の内ケア方法を常に考える姿勢が大切と思っている。	長い時間をかけて、ご利用者の”ありのまま”を受け止めていけるように努めている。声かけの仕方にも配慮し、ご本人の不安や混乱を減らしていける取り組みを続けている。身体の小さな方でベット柵の隙間から落ちてしまう可能性があり、夜間のみ四方を柵で囲んだが、日中は行わず、見守りを頻回にすることで対応した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように注意を払い、その防止に全スタッフが努めている。勉強会を実施し、理解を相互に深める必要があると思う。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	或る程度理解はしているが、現在必要と思われる対象者がいないため、話し合い等はない。これからも、制度理解も含めてスタッフ相互に勉強の機会をつくっていききたい。	職員は、地域福祉権利擁護、成年後見制度に関する外部研修に順番に参加している。研修会に参加できなかった職員にも資料を配布し、内部研修を行い、職員の制度に関する理解を深めている。説明用のパンフレットを基に、入居契約時に制度について説明を行い、現在1名の方が成年後見制度を活用されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	口頭で受けることはあるが、全ての方から出る訳ではないので、意見箱等の設置を検討しているが、まだ実施に至っていない。今後、意見等を文書で管理し、話し合い、運営に反映させる目に見えるシステムが望ましい。	ご利用者の日頃の状況を“田尻の里たより”でお知らせし、ご家族面会時や電話にて、意見を伺っている。ご家族からの意見は、月2回の担当者会議で協議し、職員ミーティングで話し合っている。職員のケア内容や外出(買い物)への希望も検討し、人間的に余裕を設けて買い物にお連れする機会を作っている。	今後も引き続き、全てのご家族の方が意見を言いやすくする環境を作ると共に、頂いた意見を文書で管理するシステムが必要と考えている。意見箱の設置も含め、より多くの意見が頂ける方法を検討していく予定にしている。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから要望して対応してくれることはあるが、機会を設けてくれている訳ではない。出来れば、個人面談、スタッフが意見を言える機会を設けていく。	職員が自発的に考える事を大切にしている。担当者会議で、ご家族へのお便りの書式や休憩時間のルール作りの意見が出され、実践に繋げている。職員に行ったアンケートの意見も採用し、各ユニットに合ったルールを決める取り組みも続けている。	職員個別の目標を記入できる用紙なども作成予定である。職員個々の目標や役割分担(仕事の負担度等)も含めて職員との個人面談を行い、より多く職員の思いを引き出せる環境作りに努めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者へ全て任せている。管理者は努めてくれているが、あまり理解されていない面も多い。客観的、具体的評価システムの構築が望ましい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施されている。	面接時には、職員の仕事への思いやホームの思いを確認しながら、自主的にホームで仕事ができる方かどうか等、採用時に大切にしている。採用後も職員のモチベーションを維持するために、意見や不満を管理者に伝えやすい職場作りを心がけると共に、得意な事などを發揮してもらっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施されていない。	個人面談等を通して、管理者は“大切な人を守る”ことの重要性を職員に伝えている。介護の質はチームワークであり、人権擁護は当ホームの最高理念であり、ホームの理念、職員に求められる原則10か条の中にも、“尊厳”という考えが入っている。“人の痛みを感じられること、当事者意識を持つこと”を管理者は伝え続けている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修での交流により、他施設の情報を参考にしたりしている。相互訪問等の機会を増やしたいし、実施していきたい。事業者ネットワーク委員になっており、今後の交流を深めたい。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の人間関係の構築には、特に重点を置いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族、本人面談を行い、家族申告アセスメント等により情報収集に努めて理解を深めることが出来るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人間関係の構築と共に、馴染みの関係になり、遠慮なく話せる信頼関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族カンファレンスを行い、本人の状態を知ってもらい、一緒に考える時間を作ってもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人支援サービスで外出企画を行っている。又、面会に見えやすい雰囲気作りに努めている。	日頃の会話の中で馴染みの場所等を伺い、ご利用者が望まれる支援を話し合っている。ご利用者の誕生月には、ご本人の思い出の場所に行くことにより、出生地の神社や市場を訪ねている。職員の送迎でお墓参りに出かける事もあり、ご本人の馴染みの関係が途切れないよう支援を続けている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性等の把握、スタッフ間で話し合い、トラブル防止に努め、仲間意識が持てるよう小グループ支援も行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の面会に行ったり、そのご家族と情報交換、共有での支援を心がけるようにしている。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握に努めている。困難な場合は、家族の話や生活歴等から検討している。	ご利用者の“ありのまま”を受け止めることを大切にされており、意思疎通が困難な方もスキップを大切に、ご家族から生活歴や趣味等を教えて頂くように努めている。職員サイドで考えるのではなく、ご利用者との会話の中から、「どのようにしたい、どうしてほしい」という、ご利用者の思いや意向を把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントや本人からの話により、把握を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った暮らしのリズムを把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスを行い、作成している。	“介護は生活そのもの”と考えており、“花の水やり”“テーブル拭き”“日めくりをめくる”など、ご本人の役割と合わせて、ご家族の役割も盛り込まれている。一方のユニットは、23年から担当チーム中心に計画を作成し、ご家族を交えてのカンファレンスを行っている。両ユニット共にご家族からの聞き取りを増やすようにした。	一方のユニットは、計画作成に関する業務は、計画作成担当者が担っている部分が多いが、職員が定着する状況も見ながら、より多くの職員が計画作りに関わるようにしていきたいと考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、ケース記録、経過記録、モニタリング等の記録を活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の法事への列席を支援したりしている。出ること、出来ないことがあるので、全ての利用者へ同じく提供できるサービスを心がけるべき。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3B体操、歌唱レッスン、保育園との交流等、定期的に行っている。地元のイチゴ農家の御好意でイチゴ狩りをさせていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望があれば、家族対応を含めて、実施している。	往診可能でもあり、森本医院にかかりつけ医を変更される方もおられる。職員は、病気を学ぶと共に、BPSD行動の自己防衛や長年の生活習慣や環境からの影響も含めて、ご利用者との関わり方の検討をしており、医師からのアドバイスも頂いている。受診結果は、医療受診報告書に記載し、ご家族に報告している。	森本医院との報告・相談体制に努めているが、介護職員ができない医療行為に関する対応や、緊急時の対応について、現場に即した適切な対応ができるように、今後も話し合いを続け、医療連携を深めていきたいと考えている。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関である森本医院を主に、報告・相談の形で努力している。しかし、医療職と介護職間の連携がうまくいかず、不安を抱えながら介護している面も多い。連携の在り方について話し合う必要がある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー等情報提供に努め、適宜、地域医療連携室、主治医、ナースセンターに対して関係調整に努めている。また、入院時の定期面会に努めて、認知症等障害伸展の防止緩和に努め、見回り品の援助などに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要と思われる状況になってからの話し合いを実施している。その時の利用者、家族、スタッフの状況によっても話が違ってくる状況も認められ、決めつけて早期に話し合えることが困難でもある。慎重に対応せざるを得ない。	「ここで最期まで」と言う方もおられ、ご家族の協力や職員の状態、サービスの提供体制の可否等によっては、看取りケアは可能と管理者は考え、過去1名の方の看取りケアが行われた。日々の生活の中でも、重度化しないよう健康管理に努めると共に、心身状況によっては、必要時、紹介状を書いて頂き、病院を紹介する等の対応も丁寧に行っている。	「看取りケア」への不安を感じている職員もいるため、今後、職員との意見交換を行い、看取りケアを考える機会を作っていきたいと考えている。ホームとして、どこまで対応できるのかを明記した「ガイドライン」作りも検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を各自受けているが、現場での実践力には不安がつきまとう。ロールプレイング等の現場研修の必要性を感じるが、実践するには相應の準備が求められる。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施しているが、地域と協力体制はない。強化する必要がある。	災害マニュアルを作成し、両ユニット合同で、ご利用者と職員による火災発生時の初期消火、通報、避難誘導訓練が年に2回行われている。災害時に備え、3日分の非常食セットの準備もされている。隣接する母体医院を避難先として、具体案の検討が行われており、医院には、火災時の救護活動などの連携をお願いしている。	隣接する森本医院との合同訓練を実施していくと共に、所轄の消防署の方も一緒に、夜間想定訓練を行っていきたいと考えている。今後も引き続き、実施に向けた検討を続けていく予定にしている。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者の視線を避ける個室での援助等、配慮を心がけているが、共用ホールでのプライバシーの確保が難しい。また記録の保管等配慮が足りない面も認められる。	排泄や入浴の際も、さりげなく耳元でお誘いしたり、更衣などは個室で行う等、ご利用者の羞恥心への配慮も行われている。ご利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言動にも気を配り、職員同士でお互いに注意しあうようにしている。個人情報の管理もできている。	繰り返しの言動等に対して、時に職員の語尾が強くなる時があり、その都度、深呼吸をして気持ちをリセットするようにしたり、別の職員が対応する等の対応を続けている。今後も引き続き、意識して取り組んでいきたいと考えている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的でなく、意思表示ができる声かけを常に心がけている。業務が優先しがちになるが、その思いは大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の身体レベルに合わせて、無理強いしないのと、ほったらかしにもしないよう心がけて、声かけなど密に保っている。業務優先になりがちであるが、いつも気にかけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お似合いの洋服を選んだり、髪染めや、マニキュア、行事の時の化粧などをさせていただいている。ただ、均一になりがちであるが、可能な限り心がけてあげたい。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、調理や味見、テーブル拭き等、参加していただきスタッフと一緒に食事をいただくようにしている。下膳なども、出来る方にはしていただいている。	料理の本等を見て頂いて、ご利用者に“食べたいもの”を伺うようにしている。新鮮な魚や野菜を多く使った食事が提供されており、ご利用者からも「この食事は美味しいよ」と教えて頂いた。下ごしらえや下膳、テーブル拭きなどを手伝って下さる方もおられる。畑にはスナックエンドウを植えており、収穫も楽しみの1つとなっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方や、肥満気味の方、極端な偏食傾向の方等、それぞれに合った食事の量、内容など吟味して、支援としている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず個別支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、時間毎の誘導等を履行している。オムツから布パンツへの改善はないが、オムツ使用にならないよう排泄ケアを進めている。	ご利用者毎の排泄表を作成し、排泄パターンの把握に努めており、1つのユニットではリハパンツから布パンツに変更できた方もおられる。ご利用者の表情や様子を見ながら、そっと寄り添い、トイレでの排泄支援を心がけている。失禁時等は他の利用者に気づかれないような声かけを行う等、羞恥心への配慮も続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜メニューを多く採り入れたり、ヨーグルトの摂取、便秘傾向の方は服薬コントロールも行っている。ただ、運動量の確保では、思うに任せないケースも多い。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制の都合等から、なかなか意向に添うことが難しいのが残念。	ご本人が“入りたい”と思った時に、入浴できるように努めており、拒否が見られた方にも声かけを工夫している。心身状況によっては3人で介助する場合もあり、入浴時は会話や歌を楽しみ、季節に応じてミカン湯やゆず湯なども楽しまれている。脱衣所から、そのまま浴室へ入れるシャワーチェアも購入された。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが全てを理解している訳ではないが、おおそ把握できており、薬の変更等も必ず申し送りを心がけて周知するように努めている。また、ダブルチェックなど入念な努力を心がけて事故防止に努めている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や習字、裁縫、学習ドリル等、個々の楽しみに合わせて行うように配慮している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望という訳にはいかないが、買い物の希望があれば、近日中に行ける日を設定し叶えるようにしている。誕生月には個人が希望される処へ出かけたりするようにしている。	毎日、散歩に行かれていた方もおられる。ご利用者から“美味しいんぶらが食べたい”等の声をお聞きし、ドライブを兼ねてランチに行かれたり、大型ショッピングセンターでの買い物も楽しまれている。季節に応じて、周船寺の桜等の花見に行かれたり、蛍を見に初の“夜の外出”も行われた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の娘さんへ電話をされたり、年賀状を出したりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	各ユニットのフロアーは広く、ご利用者が書かれた習字や保育園児の作品、季節に応じた飾り物が飾られている。玄関やリビングには、ご利用者が手入れされている観葉植物が置かれ、リビングの天窓からは明るい日差しが差し込んでいる。除菌も可能な大型の空気清浄機が各ユニットにあり、冬は加湿器を使用するなど、湿度管理も行われている	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の相性を考慮して、視線が合わないようにしたり、色々工夫できる範囲で努力している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に判断、行ってもらい、日々、スタッフも工夫に心がけてきた。	ご自宅との環境の違いを感じられないように、カーテンの色やデザインは選んで頂いている。寝具や筆筒、鏡台、仏壇等を自宅から持ち込まれ、ご本人が過ごしやすいお部屋作りをされている。使い慣れた食器を持参されたり、花が好きな方はお部屋に花を飾り、居心地良い空間作り心掛けています。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所等の掲示。居室の表札等の工夫などをして いる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホーム田尻の里

作成日: 平成 24 年 2 月 9 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は構成委員間のみで進められた関係で、ホームスタッフが地域密着事業の運営に関わる機会がなかった。	地域密着事業制度趣旨に沿って、地域関係者・スタッフ、家族間での開かれた会議を持ちたい。管理者以外のスタッフもホームの一員として運営、方針の決定に携わる。	ユニット別ケアを中心に各ユニットのケア展開のみに甘んじていたが、今後、主力業務のユニットの主体性を前面に出しながら、地域密着事業運営全般に係る面では、ユニット枠を外し、両ユニットのスタッフが協働し、制度趣旨目的に資するように会議の開催企画に参画する。	24 ヶ月
2	33	医療連携の運営状況について、たとえば検査結果の報告がないまま薬が処方、或いは医療管理がなされ、入居者の健康管理、疾病予防管理に資する介護のプラン・ドゥ・シー等生かされないことによる介護ストレスを感じている。また、介護職員の医療面での行為について病院が把握していない状況でもあり、緊急時等の対応に不安がある。	医療連携の在り方について、連携医療機関関係者と、ホーム介護スタッフとの具体的、定常的業務連携の在り方を図る。	主たる連携医療機関と、課題・目標にそって各業務実態の再確認を話し合う。特に、連携医療機関のホーム運営に堪能な窓口の一本化を要請したい。緊急時対応のマニュアルの見直しを含め、双方要望を尊重し合っの指導体制の構築を図るものとしたい。	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月